

中小企業における ワーク・ライフ・バランスとは



ワーク・ライフ・バランスの取組みは、大企業よりも経営者と従業員の距離が近く、個々の従業員の実情が見える中小企業こそ、実践しやすい面があります。取組みの効果は、優秀な人材の確保、従業員の意欲向上・生産性の向上など、会社にとってのメリットとして現れてきます。従業員にとっても、限られた就業時間内で生産性をあげるための知識やスキルの向上、時間管理能力が高まることによる業績アップ、ストレス軽減による心身の健康の保持促進など、メリットは多いといえます。

■ 小さな組織ならではの機動性や柔軟性が強み

中小企業で従業員が仕事と育児を両立しやすい要因を整理すると、たとえば次の4つがあげられます。

- ◆ 従業員の個別の事情に柔軟にすばやく対応できる。
- ◆ 職住近接によって、通院や学校行事への参加等もしやすい。
- ◆ 育児をしながら働くことへの職場の理解がある。
- ◆ 人間関係が築かれており、復帰後や再雇用後も働きやすい。

■ 介護に携わりながらの就業継続

一方、家族介護を行う従業員は今後ますます増加することが予想されています。現在40代、50代の従業員の5年後を想像してみてください。介護に携わりながら働き続ける従業員を支援するための、仕事と介護の両立支援についても、待ったなしの状況だといえます。

■ 自社の状況に合わせた取組みが必要

既に法定どおりの制度を導入しているのでこれ以上の取組みの必要はない、という認識の企業も少なくありません。しかし、制度が利用しやすいかどうか、効果的な運用がされているかどうか、自社の取組みの進捗状況を把握し、自社の状況に合った取組みを進めて、効果を高めていくことが大切です。

香川県内の中小企業にも、自社の状況に合わせた取組みを進めている企業が多数あります。この事例集では、その中からほんの一握りではありますが、取材に御協力いただいた7社の具体的な取組み内容について紹介します。